

## 新規受託項目

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記項目につきまして、検査の受託を開始いたしますのでご案内申し上げます。

謹白



### 項目名

#### 【結核菌および非結核性抗酸菌の薬剤感受性検査】

- 抗酸菌同定・薬剤感受性セット (依頼コード No.86806)
- PZA(ピラジナミド)〔結核化学療法剤〕 (依頼コード No.08772)
- 非結核性遅発育抗酸菌/MIC測定 (依頼コード No.03185)
- 迅速発育抗酸菌/MIC測定 (依頼コード No.86207)

受託開始日 2023年4月1日(土) ご依頼分より

抗酸菌は結核菌と非結核性抗酸菌に大別され、非結核性抗酸菌はさらに、遅発育抗酸菌、迅速発育抗酸菌に分けられます。

結核の標準的な治療はリファンピシン(RFP)+イソニアジド(INH)+ピラジナミド(PZA)の3剤にストレプトマイシン(SM)またはエタンブトール(EB)を加えた4剤併用で2か月間治療後、RFP+INHで4か月間治療が行われます。一方、近年急増している、非結核性抗酸菌症は、190種類以上が確認されている非結核性抗酸菌の一部の菌により引き起こされ、ヒトに対する感染性の有無や治療に使用する抗菌薬が結核とは異なるため、菌種の同定と菌種に応じた薬剤感受性検査が必要です。

この度、質量分析法により同定された抗酸菌の菌種に応じて薬剤感受性検査を自動的に選択実施する、抗酸菌同定・薬剤感受性セットを新設しました。また、PZA(ピラジナミド:結核化学療法剤)および非結核性遅発育抗酸菌や迅速発育抗酸菌に対する薬剤感受性検査の依頼コードを新設しましたのでご案内いたします。

次ページに続きます

## ● 抗酸菌同定・感受性セット

本セットは、質量分析法にて抗酸菌の同定検査を行い、検出された抗酸菌に応じて薬剤感受性検査を自動的に選択して実施いたします。

### 受託要領

セットコードNo. (セット名)	86806 抗酸菌同定・感受性セット
検査項目名 (セット内容)	① 86175 抗酸菌同定(質量分析法) ② 08052 抗酸菌薬剤感受性試験-4薬剤以上/マイクロタイター法 ③ 08772 PZA ④ 03185 非結核性抗酸菌/MIC測定 ⑤ 86207 迅速発育抗酸菌/MIC測定
検体必要量	菌株 : 抗酸菌の発育が認められるもの 生検体: 喀痰、胃液など2~3mL
容器	菌株 : 抗酸菌用培地 生検体: S-P(ネジブタ付滅菌喀痰容器)、S-S(滅菌スピッツ管)
検体の保存方法	菌株 : 室温 生検体: 冷蔵

#### 【本セットの薬剤感受性検査の実施条件】

(①抗酸菌同定の結果により、以下のように実施いたします。検査対象薬剤は4ページをご参照ください。)

実施条件	実施項目
結核菌群検出の場合	②抗酸菌薬剤感受性試験-4薬剤以上、③PZA
非結核性遅発育抗酸菌検出の場合	④非結核性抗酸菌/MIC測定
非結核性迅速発育抗酸菌検出の場合	⑤迅速発育抗酸菌/MIC測定

※②,③はS(感性)またはR(耐性)を報告いたします。④,⑤はMIC値( $\mu\text{g}/\text{mL}$ )を報告いたします。

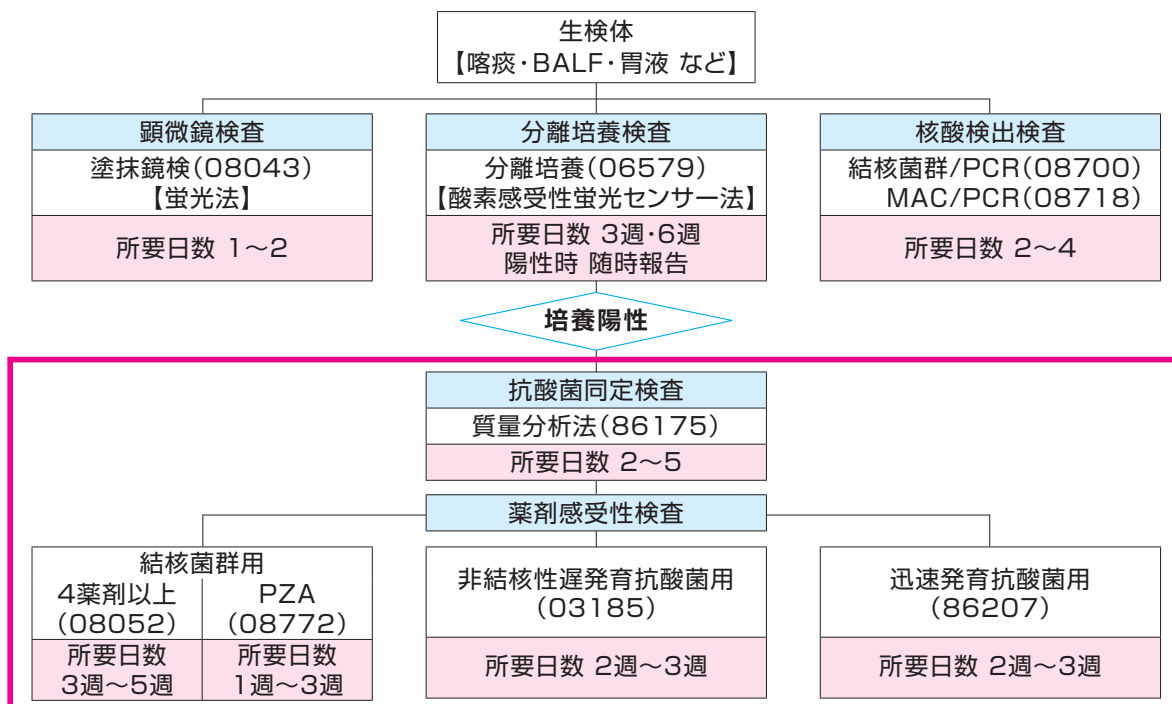
※1つの検出菌に対して、複数の薬剤感受性検査を実施することはできません。

※検査を実施しない薬剤感受性検査は「検査不要」と報告いたします。

#### 【出検時の注意事項】

- 菌株でご提出の場合は、雑菌が発育していない培地をご提出ください。
- 生検体でご提出の場合は、必ず分離培養も同時にご依頼ください。  
培養陽性後に検査を実施いたします。  
・依頼コードNo.06579: 分離培養(酸素感受性蛍光センサー法)  
・依頼コードNo.08044: 分離培養(小川培地使用)

## ● 抗酸菌検査フローチャート(BML推奨)



※赤枠内: 新設の抗酸菌同定・薬剤感受性セット(セットコードNo.86806)

◆( )内は依頼コードNo.

## ● PZA・非結核性遅発育抗酸菌・非結核性迅速発育抗酸菌の薬剤感受性検査

菌種確定後に、薬剤感受性検査を個別にご依頼いただく場合の依頼コードです。

下記の【出検時の注意事項】をご参照の上、ご利用ください。

### 受託要領

依頼コードNo.	08772	03185	86207
検査項目名	PZA	非結核性抗酸菌 MIC測定	迅速発育抗酸菌 MIC測定
統一コード	6C205-0000-080-762	6C205-0000-080-762	6C205-0000-080-762
検体必要量	菌株：抗酸菌の発育が認められるもの 生検体：喀痰、胃液など2～3mL		
容器	菌株：抗酸菌用培地 生検体：S-P（ネジブタ付滅菌喀痰容器）、S-S（滅菌スピッツ管）		
検体の保存方法	菌株：室温 生検体：冷蔵		
所要日数	1週～3週	2週～3週	
検査方法	液体培地希釈法		
基準値	なし		
検査対象薬剤	PZA	SM,EB,KM,RFP,RBT, LVFX,CAM,TH,AMK	AMK,TOB,IPM,FRPM, LVFX,MFLX,AZM,CAM, ST※1,DOXY,MEPM, LZD,CLF,STFX
報告形式	S(感性)またはR(耐性)	MIC値(μg/mL)	
検査実施料/判断料	400点※2/150点 (微生物学的検査)		
備考	<p>・所要日数に培養日数および増菌などにかかる日数は含まれませんのでご注意ください。</p> <p>※1：ST(スルファメトキサゾール/トリメトプリム)につきましては、スルファメトキサゾールのMIC値を報告いたします。</p> <p>※2：抗酸菌薬剤感受性検査は、4薬剤以上を実施した場合に限り算定されます。PZA(ピラジナミド)単薬剤での算定はできません。</p>		

### 【出検時の注意事項】

- 貴施設にて、抗酸菌の培養・同定検査を行った後の菌株でご提出の場合は雑菌が発育していないことをご確認の上、菌種名を依頼書にご記入ください。
- 同定されていない菌株でご提出の場合は、抗酸菌同定(質量分析法)(依頼コードNo.86175)も同時にご依頼ください。菌種確定後に検査を実施いたします。
- 生検体でご提出の場合は、必ず分離培養と抗酸菌同定(質量分析法)も同時にご依頼ください。培養陽性となった場合に同定検査を行い、菌種確定後に検査を実施いたします。
  - (分離培養検査)
    - ・依頼コードNo.06579:分離培養(酸素感受性蛍光センサー法)
    - ・依頼コードNo.08044:分離培養(小川培地使用)
  - (同定検査)
    - ・依頼コードNo.86175:抗酸菌同定(質量分析法)

## (ご参考)薬剤の略語と薬剤名

### ●抗酸菌(結核菌)薬剤感受性試験-4薬剤以上の検査対象薬剤およびPZA

SM(ストレプトマイシン)	PAS(パラアミノサリチル酸)	
INH(イソニアジド)	KM(カナマイシン)	EVM(エンビオマイシン)
EB(エタンブトール)	RFP(リファンピシン)	TH(エチオナミド)
CS(サイクロセリン)	LVFX(レボフロキサシン)	PZA(ピラジナミド)

### ●非結核性抗酸菌/MIC測定(■)および迅速発育抗酸菌/MIC測定(★)の検査対象薬剤

SM(ストレプトマイシン)■	EB(エタンブトール)■	KM(カナマイシン)■
RFP(リファンピシン)■	RBT(リファブチン)■	LVFX(レボフロキサシン)■★
CAM(クラリスロマイシン)■★	TH(エチオナミド)■	AMK(アミカシン)■★
TOB(トブラマイシン)★	IPM(イミペネム)★	FRPM(ファロペネム)★
MFLX(モキシフロキサシン)★	AZM(アジスロマイシン)★	DOXY(ドキシサイクリン)★
MEPM(メロペネム)★	LZD(リネゾリド)★	CLF(クロファジミン)★
STFX(シタフロキサシン)★	ST(スルファメトキサゾール/トリメトプリム)★	

### 【参考文献】

日本結核・非結核性抗酸菌症学会編集:抗酸菌検査ガイド2020. (南江堂)